

World Winter City News

日本語要約版

2004年第2号

World Winter Cities Association for Mayors

発行：世界冬の都市市長会

060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市国際部内

tel. 011-211-2032 fax. 011-218-5168

e-mail: wwcam@city.sapporo.jp

世界冬の都市市長会、世界旅行博に参加!

世界冬の都市市長会(WWCAM)の会員都市である長春、瀋陽(中国)、太白(韓国)、トロムソ(ノルウェー)、青森、札幌(日本)は、2004年9月24日から26日まで東京ビッグサイトで開催された「JATA世界旅行博2004」に参加し、共同で観光PRを行った。参加各都市は、観光パンフレットを配ったり、観光用ビデオを放映するなど「冬の都市」としての魅力を来場者にPRした。

東京は、「冬」の期間が短く、雪もあまり降らないことから、東京周辺から訪れた来場者は、比較的「冬の都市」への憧れが強いようで、トロムソの「オーロラ」や、札幌、青森の雪や氷の祭典、太白や長春、瀋陽の一面雪に覆われた景色や冬のスポーツなどに関心を示していた。来場者の中には、観光情報を入手するため、スタッフに熱心に質問を繰り返す姿も見られた。

観光誘致の側面から考えると、「冬」は貴重な観光資源になる。雪を見たことのない人々にとって、雪一面の景色は想像を絶するほどの美しさに思えるようだ。この「冬」を貴重な財産・資源として、観光誘致を進める余地はまだまだ大きいとWWCAM会員都市は考えており、WWCAMの共同事業として2005年にも世界旅行博に参加することを決定した。

都市間交流 <ウランバートルと札幌のケース>

世界冬の都市市長会では、会員都市同士がそれぞれ関心のある分野に応じて交流を行っており、札幌市とウランバートル市との間の交流もその一例。2001年に始まったこの交流では、毎年1名のウランバートル市役所の職員が約5ヶ月にわたって札幌市役所で研修を受けている。2004年は、ウランバートル市国際交流協力部のナランチュヤ・シャルさんが6月から11月まで札幌市役所で、行政事務について研修を受けた。

ナランチュヤさんとのインタビューは、下記のとおり:

事務局: 日本、札幌の印象はいかがですか?

ナランチュヤ: 日本は発展している面もある一方、伝統的なものも残っていて、印象的です。気候は、モンゴルと似ていて、過ごしやすく、街はきれいで、自然も豊か。そして市民は親切ですね。車のハンドルは、モンゴルとは逆に、右側についているので、最初少し戸惑いました。

事務局: 研修を受けての感想をおしえて下さい。

ナランチュヤ: 札幌市のたくさんの部局で、交通、税金、経済などについて研修を受けました。特に、自分の仕事でもある国際交流の分野では見習う部分がたくさんありました。ウランバートル市国際交流協力部は海外に向けて市の情報を発信し、支援・協力を要請することが主な仕事ですが、札幌市国際部では市民主体の国際化に力を入れている

ことが特に印象的でした。

事務局: ウランバートルは、1998年から世界冬の都市市長会の会員都市として活動していますが、今後どのような活動ができると思いますか?

ナランチュヤ: 個人的な考えなのですが、ウランバートル市ではこれまで青森市との子供交流やスウェーデンのキルナ市とスポーツ交流などを行ってききましたが、これからも市長会の会員同士ネットワークを通して交流の幅を広げていけたらいいのではないかと思います。ウランバートル市の気温は冬にはマイナス40度にもなり、一年のうち9ヶ月間は暖房が必要です。そのため、暖房設備の維持管理や燃料の確保が重要な課題です。これまで市長会の活動の中心は会議でしたが、これからは、会員都市が抱える問題の解決策を、他の都市が力をあわせて考えていければ、会員都市としてのメリットになると思います。

実務者会議を長春で開催

世界冬の都市市長会では、2004年7月15日から17日まで、中国吉林省の長春市において、実務者会議を開催した。長春市では2006年(1月15日~18日)に第12回世界冬の都市市長会議が開催されることになっている。今回の実務者会議は3回目の開催となり、会員都市の行政実務担当者を中心に30名が出席して活発な意見交換が行われた。長春市長の歓迎挨拶の後、2006年の第12回市長会議の開催計画案、世界旅行博への参加、WWCAMのロゴや2005年度の市長会活動などについて熱心に協議が行われた。

また、世界冬の都市市長会に設置された2つの小委員会、「持続可能な冬の都市づくり小委員会」、「テロ対策小委員会」がそれぞれの調査・研究内容を中間報告し、出席者と意見交換を行った。

実務者会議では、会員都市の参加者同士が顔を合わせて協議することにより、2006年市長会議の準備に向けてコミュニケーションを深め、絆を強めることができた。

- 主な協議事項 -

< 第12回市長会議の開催計画案 >

2006年1月15日から18日に予定されている第12回会議の開催都市、中国・長春市より、全体テーマを「冬における発展」(“Grow in winter”)、分科会のテーマを「冬季における環境問題について」「冬季の市民生活における課題の克服について」としたいとの提案があり、承認された。

< 2005年共同事業 >

毎年会員年が共同で行う事業として、2005年度は、本年度同様、東京都において開催される「JATA世界旅行博2005」(9月22日-24日)に共同出展して、各都市の観光PRを行うことが決議された。

< ロゴマーク >

6つの会員都市から市長会の新しいロゴマークのデザイン案が提出された。この中から、全会員都市の投票によって、新しいロゴマークが選出される予定。

< 2005年実務者会議開催市 >

2005年実務者会議を韓国、太白市で開催することが決議された。太白市は、韓国の南東部に位置し、太白山で知られる都市。人口は、約54,000人。

市長会広報

< ホームページをリニューアル >

「北方都市市長会」から「世界冬の都市市長会」への名称変更に伴い、ホームページがリニューアルされた。これまでは英語のみだったが、新しいホームページは英語、日本語、中国語、ハングル、ロシア語の5カ国語で作成されている。

ホームページは、市長会のこれまでの歩みや過去の会議概要に加え、これまでに発行された広報誌、会員都市のホームページにもリンクされている。<www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/>また、ホームページは利用者の意見を取り入れて随時更新していく予定なので、お気づきの点は、市長会事務局までご連絡を。

< 5カ国語による市長会パンフレット >

市長会の活動概要を紹介したパンフレットを英語、日本語、中国語、ハングル、ロシア語の5カ国語で作成しました。パンフレットには、ホームページと同様、市長会のこれまでの歩みや過去の会議概要に加え、市長会の憲章などが掲載されている。また、会員都市の観光情報を紹介したパンフレット(日本語のみ)も作成されている。パンフレットの送付を希望する方は、世界冬の都市市長会事務局までご連絡を。

「世界冬の都市市長会」会員都市紹介

ジャムス(中国)- 観光産業は日の出の勢い

ジャムス市は観光プロモーション・キャンペーンに力を入れており、国内外から毎年50万人の観光客を呼び込むことを目標に5つのツアー・プロジェクトを企画した。

国境川くだりツアー

ジャムスは、ロシアとの国境沿いに449kmにわたって川が流れており、遊覧船で中国とロシア両国の素晴らしい景色を楽しむことができる。

ホジェン族ツアー

中国最小の少数民族ホジェン族のライフスタイルや伝統的な習慣を興味深く体験することが出来る。

この他、「大亮子河原生林ツアー」、「三江平原農業ツアー」や「臥佛山スキーツアー」も企画されている。

ハルビン(中国)- ようこそ歴史の街へ

ハルビン市は、南は長白山、北は小興安嶺山脈に囲まれた街で、市内には美しい松花江が流れている。

観光の目的地

ハルビンは中国でも有名な歴史街を有し、全国で最初に観光都市として国から指定を受けた市のひとつ。800年の伝統を保ちながら、東洋と西洋の文化を併せ持つ街に変化していった。そのため、街にはたくさんのヨーロッパ風、日本風の建物を見ることができる。

ウィンター・ワンダーランド

ハルビンには有名なリゾート地やスキー場があるほか、「ハルビン国際氷雪祭」や雪と氷の雄大なイベント「氷雪大世界」などもよく知られている。東北虎林園にはサファリパークもある。

ハルビンには外国からの観光客17万人を含む年間140万の観光客が訪れ、その数は年々増加している。市内には、135の旅行社、72軒の外国人向けホテルがある。

チチハル(中国)- 鶴の故郷

チチハル市は、黒龍江省の省都ハルビンの北西に位置する省内第二の都市で、経済、文化、交通の中心地。

ダオル族語の「辺境」を意味するチチハルは、1692年に都市建設が始まり、300年の歴史を誇っている。

住民のほとんどが漢民族で、人口の七割は農業、林業、牧畜業に従事している。また、近年は新興工業都市として大きく発展しつつある。

チチハルは、「鶴の故郷」として知られており、21万haの面積を有する札龍自然保護区には、300あまりの野鳥が生息しており、なかでも鶴は、世界に15種類、中国に9種類生息する鶴のうち、この自然保護区では6種類を見ることができる。この札龍自然保護区は、特に丹頂鶴の保護区としてよく知られ、近年丹頂を見に国内外から多くの観光客が訪れている。

鶏西(中国)- どこまでも続く、美しい特色のある景観

22,500平方キロの面積を有し、200万人の人々が住む鶏西市は、黒龍江省の南東に位置している。工業都市として建設された美しい街は、豊富な資源と石炭、電気、金属、化学、建築資材産業などでよく知られているが、食品加工や医薬品・飼料生産などの分野でも発展を続けている。植生や環境に恵まれた鶏西は、農地や湖沼、天然資源、森林、青く澄んだ空、そしてきれいな水も豊富。

ロシアとの国境は、641kmに及ぶ。トップクラスの物流センター2箇所を有し、アメリカ、ロシアなど25カ国との貿易の中心となっている。情報技術やインフラ整備の面でもめざましい発展を示しており、商取引上非常に重要な街となっている。

鶏西市の120箇所を超える歴史的な名所や自然景観も多くの観光客を引きつけていて、観光収入は順調に増え続けている。